

K U D O N E W S

第34期 中間事業報告書 自平成16年7月1日 至平成16年12月31日

【第16号】

“安心”支える技術力——先端の“技”で、
快適な暮らしをお届けします。



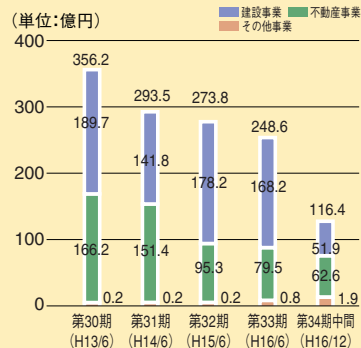
工藤建設株式会社

Financial Highlights

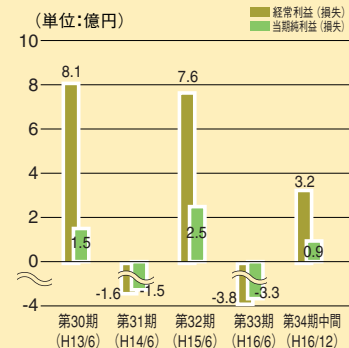
連結財務ハイライト

	第30期 (H13/6)	第31期 (H14/6)	第32期 (H15/6)	第33期 (H16/6)	第34期中間 (H16/12)
					(単位: 億円)
売上高	356.2	293.5	273.8	248.6	116.4
経常利益 (△経常損失)	8.1	△1.6	7.6	△3.8	3.2
当期純利益 (△当期純損失)	1.5	△1.5	2.5	△3.3	0.9
総資産	334.8	254.2	240.3	226.4	245.3
株主資本	39.4	36.6	38.1	34.1	34.4
					(単位: 円)
■ 1株当たり					
株主資本	303.53	282.15	293.35	263.08	264.99
当期純利益 (△当期純損失)	11.97	△12.21	19.79	△26.03	7.30
配当金	10	5	10	10	5

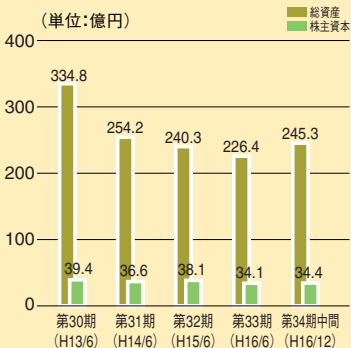
■ 売上高 (部門別)



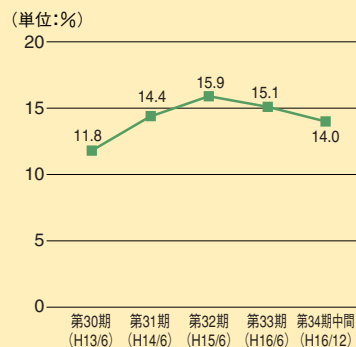
■ 経常利益(損失)/当期純利益(損失)



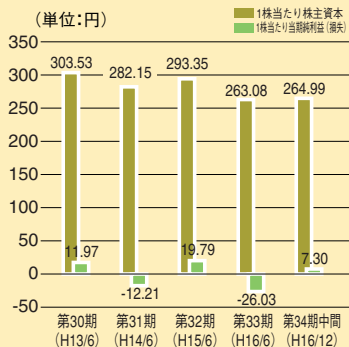
■ 総資産 / 株主資本



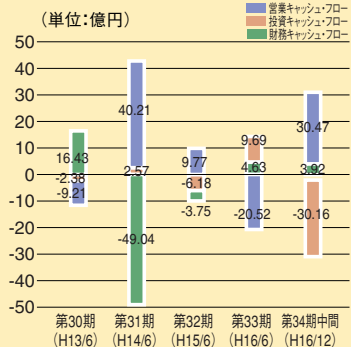
■ 株主資本比率



■ 1株当たり株主資本 / 1株当たり当期純利益(損失)



■ 連結キャッシュ・フロー



To Our Shareholders

株主の皆様へ



代表取締役社長

工藤次郎

ており、民間建設投資は、企業収益の回復から設備投資等の需要は一部に活発化が見られました。住宅等につきましては、分譲住宅の着工が増加していることに加え、持家、貸家が底堅く推移いたしました。

また、不動産業界におきましては、分譲住宅（マンション・戸建て）の着工が高水準で推移いたしました。価格競争等の厳しい状況が続きました。

このような情勢のなか当社では、横浜市を目指す「民の力が十分に発揮できる都市・横浜」の実現に向けて、当社が中心となり、建設業に限らず、関心を持つ市内企業とともに「ヨコハマ経営革新研究会」を立ち上げ、公共事業の変革に伴い、今後のPFI事業・PPP事業の企画・提案へ積極的に参画することとしております。

新しい事業として開始いたしました、当社が直営で運営しております「高齢者福祉事業」も「フローレンスケアたかつ」・「フローレンスケア美しが丘」と順調に推移しており、今春には第3号施設として川崎市宮前区に「フローレンスケアたまプラーザ」の開設を予定しております。

また、賃貸マンション等の顧客獲得のために、子会社である(株)日建企画では、中川店・たまプラーザ店・市が尾店に続き、恵比寿店・横浜西口店をそれぞれオープンいたしました。

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当期における我が国経済は、公共投資の減少が続きましたが、輸出及び生産が増加し、個人消費も緩やかな増加に転じるなど、企業収益は大幅に改善し、設備投資も増加しました。雇用情勢は厳しさが残るものの改善の兆しが見えるなど、緩やかな回復基調となっております。

当社が属します建設業界におきましては、公共建設投資は、減少傾向が依然として続い

当中間連結会計期間における当グループの連結業績は、次のとおりとなりました。売上高は、116億46百万円（対前年同期比21.3%増）、経常利益は、3億20百万円（前中間連結会計期間経常損失12百万円）、中間純利益94百万円（前中間連結会計期間純損失83百万円）となりました。

これを事業別のセグメントで見ますと、建設事業につきましては、売上高51億92百万円（対前年同期比18.0%減）、営業利益は2億26百万円（対前年同期比49.5%減）となりました。不動産事業につきましては、売上高62億62百万円（対前年同期比92.2%増）、営業利益は5億93百万円（対前年同期比307.9%増）となりました。また、その他事業につきましては、売上高1億91百万円（対前年同期比1606.7%増）、営業損失は23百万円（前中間連結会計期間営業損失32百万円）となりました。

次に当社単独の業績といたしましては、売上高は、98億57百万円（対前年同期比30.3%増）、経常利益は2億43百万円（前中間会計期間経常損失1億77百万円）、中間純利益は74百万円（前中間会計期間純損失1億97百万円）となりました。

連結キャッシュ・フローの状況につきましては、不動産事業支出金の減少や未成工事受入金の増加などにより営業活動によるキャッシュ・フローが30億47百万円プラス（前中間連結会計期間は35億42百万円マイナス）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは30億16百万円マイナス（前中間連結会計期間は4億86百万円プラス）に、また、長期借入金の増加などにより財務活動によるキャッシュ・フローは3億92百万円プラス（前中間連結会計期間は24億80百万円プラス）となっております。

この結果、現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は、前連結会計年度末残高と比べて4億22百万円増加して、27億77百万円となりました。

また、当中間連結会計期間末残高における有利子負債の総額は、前中間連結会計期間末残高と比べて16億58百万円減少して110億75百万円となりました。

国内景気の今後の見通しにつきましては、企業収益の改善を背景に、民間建設投資・個人消費も緩やかな回復傾向が続くものとおもわれますが、海外経済の動向に加え、原油価格及び一部素材価格の高騰など、懸念すべき要因もあり、予断を許さないものがあります。

株主の皆様におかれましては、今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成17年3月

“安心”支える技術力—— 工藤建設だからこそできる、先端の“技”

家・建物は決して安い買い物ではありません。

だからこそ、お客様には最高の技術を提供したい——。

当社はおお客様にご満足頂ける住宅づくりのため、このほど3つの最新技術を導入しました。

30年間メンテナンスフリーの防水加工「ノボタン・システム」、

低価格短工期と高品質を両立したモジュール型集合住宅「モジュラーエース」、

住宅からビルまで、あらゆる建物の目に見えない劣化を見抜く「赤外線構造物診断」——がそれです。

お客様の笑顔がわたしたちの喜び。

当社は先進の技術力で、お客様の快適な生活を陰から支えます。

50年防水30年保証の強力防水「ノボタン・システム」

ドイツで30年以上の実績を誇る耐水シート「ノボタン」を使った防水加工が、当社の「ノボタン・システム」です。ノボタンは、EPDM（エチレン・プロピレン）ゴムという、直射日光や酸性雨にも強いうえ、マイナス40度から120度までの温度変化にも耐えるという強力な合成ゴム製。ドイツの厳しい工業基準を満たしており、品質は折り紙付きです。また、シートの重ね部分を高温溶着で処理することで、あらゆる形状の屋根に施工が可能。どのような雨漏りでも、完全にシャットアウトすることができます。

耐用期間は50年と、従来の防水加工の4倍。施工コストは従来よりも高いものの、長期間交換工事が必要ないため、長い目でみると結局お得になります。たとえば、1,000平米に50年間防水加工をすることを考えると、「ノボタン・システム」の方が、1000万円以上もコストを削減できるのです。さらに、古い防水加工の上からでも施工が可能のため、既存の防水材の撤去や廃棄といった手

間も必要ありません。

防水以外にも、ビルの屋上緑化や庭園の池づくりなど、さまざまな用途に応用が可能。高品質の証として、当社は「ノボタン・システム」の施工には、30年の保証をお付けしています。



防水施工



工藤建設本社屋上

高品質を極めたモジュール型集合住宅「モジュラーエース」

プレハブ建築の概念をくつがえす新世代のモジュール型集合住宅。それが「モジュラーエース」です。基礎工事から竣工までをわずか3週間で済ませられる経済性と、高い安全性や防音性、快適性を、新工法「重量鉄骨モジュール工法」により両立しました。当社は、コマツハウス（株）様との提携により、この画期的な商品を皆様にお届けしています。



組立イメージ

室内イメージ

「重量鉄骨モジュール工法」では、まず、個々の部屋となる「モジュールボックス」を工場内で製造。それを建築現場に運び、組み上げた重量鉄骨の基礎にアンカーボルトで緊結することで、堅牢な集合住宅を短期間に作り上げます。内装や水廻り、電気設備までほとんどの部分を工場内で製造するため、品質管理を徹底することが可能。屋根裏に100ミリ厚、外壁に50ミリ厚のグラスウールをそれぞれ使用し、さらに遮音素材や不燃材を組み合わせることにより、高い断熱・防火・遮音性を実現しました。また、間取りや部屋数を変更する際には、モジュールボックスを交換するだけで対応できます。

外観・内装はシンプルかつ上質なデザインで統一。周囲の環境に自然に溶け込みます。もちろん、シックハウス症候群の原因となる、ホルムアルデヒドなどの有害化学物質は一切使っていません。「モジュラーエース」は、これからの時代の主流となる新しい集合住宅です。

手遅れになる前に——「赤外線構造物診断」

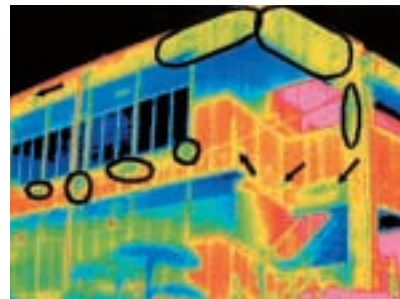
建物の老朽化は、目に見えない部分からひそかに進行していきます。カビ、ひび割れ、雨漏り——。気が付いた時には、外壁剥離などの“重症”に陥っていることも。問題が深刻になる前に、早期の診断が肝心です。そこで当社では、最新技術を駆使した「赤外線構造物診断」を導入しました。

赤外線カメラで建物の温度分布を測定し、それを専門スタッフがコンピュータで科学的に解析することにより、外見では分からないトラブルの原因をいち早く察知します。従来の検査のように、経験やカンに頼るものではなく、建物に傷を付けることもありません。壁の中の結露やシロアリの食害、コンクリートの劣化や水

漏れまで、さまざまな現象に対応。大切な資産である家・建物を守るお手伝いをします。



現況写真



解析写真

■ 中間連結貸借対照表 (平成16年12月31日現在)

資産の部				負債の部			
(科 目)	当中間連結会計期末 (百万円)	前中間連結会計期末 (百万円)	前連結会計年末(参考) (百万円)	(科 目)	当中間連結会計期末 (百万円)	前中間連結会計期末 (百万円)	前連結会計年末(参考) (百万円)
流動資産	12,872	16,159	13,862	流動負債	13,565	15,775	14,327
現金預金	3,012	2,946	2,694	支払手形・工事未払金等	2,657	2,385	2,705
受取手形・完成工事未収入金等	945	732	1,249	短期借入金	5,296	9,059	7,591
販売用不動産	257	252	1,409	1年以内償還の社債	50	—	—
未成工事支出金	4,402	3,989	2,200	未成工事受入金	4,520	3,485	3,065
不動産事業支出金	2,766	6,888	4,753	不動産事業受入金	17	159	20
その他棚卸資産	14	15	14	完成工事補償引当金	49	57	74
短期貸付金	563	674	613	賞与引当金	94	121	105
繰延税金資産	424	312	526	その他流動負債	879	506	765
その他流動資産	548	410	460	固定負債	7,246	5,170	4,790
貸倒引当金	△63	△60	△60	社債	1,500	1,050	1,150
固定資産	11,658	8,484	8,786	長期借入金	4,229	2,624	1,984
有形固定資産	7,649	4,843	4,635	預り保証金	1,425	1,443	1,402
建物・構築物	4,416	3,402	3,374	退職給付引当金	56	52	52
土地	4,709	2,801	2,681	繰延税金負債	2	0	0
その他有形固定資産	213	198	201	その他固定負債	33	—	200
減価償却累計額	△1,690	△1,559	△1,620	負債合計	20,812	20,945	19,118
無形固定資産	60	24	55				
投資その他の資産	3,948	3,616	4,095	少数株主持分			
投資有価証券	303	269	310	少数株主持分	274	—	111
長期貸付金	419	374	387				
差入保証金	2,742	2,728	2,756	資本の部			
繰延税金資産	53	72	47	資本金	867	867	867
その他投資等	759	501	923	資本剰余金	549	549	549
貸倒引当金	△329	△330	△330	利益剰余金	2,030	2,320	2,000
				その他有価証券評価差額金	79	42	84
				自己株式	△82	△81	△82
				資本合計	3,443	3,698	3,419
資産合計	24,530	24,644	22,649	負債、少数株主持分及び資本合計	24,530	24,644	22,649

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結損益計算書 (自平成16年7月1日 至平成16年12月31日)

(科 目)	当中間連結会計期間 前中間連結会計期間 前連結会計年度(参考)		
	(百万円)	(百万円)	(百万円)
売上高	11,646	9,598	24,861
完成工事高	5,192	6,330	16,826
不動産事業等売上高	6,262	3,268	7,953
その他事業売上高	191	—	81
売上原価	10,105	8,321	22,634
完成工事原価	4,545	5,474	15,037
不動産事業等売上原価	5,378	2,846	7,462
その他事業売上原価	180	—	134
売上総利益	1,541	1,277	2,226
完成工事総利益	647	855	1,789
不動産事業等総利益	883	422	491
その他事業総利益(△損失)	10	—	△53
販売費及び一般管理費	1,111	1,112	2,195
営業利益	430	165	31
営業外収益	127	16	32
受取利息	9	11	21
受取配当金	0	0	2
匿名組合収益	110	—	—
雑収入	7	5	9
営業外費用	237	194	446
支払利息	212	188	415
雑支出	24	5	31
経常利益(△損失)	320	△12	△382
特別利益	—	23	26
賞与引当金戻入益	—	23	17
その他特別利益	—	—	8
特別損失	52	154	187
固定資産除却損	1	2	2
貸倒引当金繰入額	—	140	140
役員退職慰労金	49	7	7
その他特別損失	2	4	37
税金等調整前中間(当期)純利益(△損失)	267	△144	△544
法人税、住民税及び事業税	21	68	143
法人税等追徴税額	18	—	—
法人税等調整額	100	△129	△345
少数株主利益(△損失)	33	—	△4
中間(当期)純利益(△損失)	94	△83	△338

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結剰余金計算書 (自平成16年7月1日 至平成16年12月31日)

(科 目)	当中間連結会計期間 前中間連結会計期間 前連結会計年度(参考)		
	(百万円)	(百万円)	(百万円)
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	549	549	549
資本剰余金中間期末(期末)残高	549	549	549
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	2,000	2,468	2,468
利益剰余金増加高	94	—	—
中間(当期)純利益	94	—	—
利益剰余金減少高	64	148	468
株主配当金	64	64	129
中間純損失	—	83	338
利益剰余金中間期末(期末)残高	2,030	2,320	2,000

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (自平成16年7月1日 至平成16年12月31日)

(科 目)	当中間連結会計期間 前中間連結会計期間 前連結会計年度(参考)		
	(百万円)	(百万円)	(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,047	△3,542	△2,052
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,016	486	969
財務活動によるキャッシュ・フロー	392	2,480	463
現金及び現金同等物の増加・減少(△)額	422	△575	△619
現金及び現金同等物の期首残高	2,354	2,974	2,974
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	2,777	2,398	2,354

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 事業の種類別セグメント情報

前中間連結会計期間 (自平成15年7月1日 至平成15年12月31日)

(科 目)	建設事業 不動産事業 その他事業 計 消去又は全社 連結				
	(百万円)				
売上高及び営業損益売上高					
外部顧客に対する売上高	6,330	3,257	11	9,598	—
セグメント間の内部売上高又は振替高	33	9	—	42	(42)
計	6,363	3,266	11	9,641	(42)
営業費用	5,914	3,121	43	9,079	354
営業利益(△損失)	448	145	△32	561	(396)

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

当中間連結会計期間 (自平成16年7月1日 至平成16年12月31日)

(科 目)	建設事業 不動産事業 その他事業 計 消去又は全社 連結				
	(百万円)				
売上高及び営業損益売上高					
外部顧客に対する売上高	5,192	6,262	191	11,646	—
セグメント間の内部売上高又は振替高	89	6	—	95	(95)
計	5,282	6,268	191	11,741	(95)
営業費用	5,055	5,674	214	10,944	271
営業利益(△損失)	226	593	△23	797	(367)

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間貸借対照表

(平成16年12月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期	前期(参考)
資産の部			
流動資産	10,633	14,649	12,183
現金預金	1,770	1,851	1,568
受取手形	8	59	—
完成工事未収入金	421	391	686
不動産事業未収入金	261	117	452
販売用不動産	257	252	1,409
未成工事支出金	4,175	3,827	2,046
不動産事業支出金	2,319	6,882	4,572
材料貯蔵品	13	14	13
繰延税金資産	407	311	509
その他	1,059	996	981
貸倒引当金	△61	△56	△57
固定資産	9,129	8,379	8,430
有形固定資産	4,355	4,464	4,405
建物	1,808	1,915	1,861
土地	2,486	2,486	2,486
その他	60	62	57
無形固定資産	24	15	15
投資その他の資産	4,749	3,899	4,008
投資有価証券	268	599	276
匿名組合出資金	1,141	—	415
長期貸付金	397	354	355
差入保証金	2,683	2,674	2,703
繰延税金資産	53	72	47
その他	534	528	540
貸倒引当金	△329	△330	△329
資産合計	19,762	23,028	20,613

科目	当中間期	前中間期	前期(参考)
負債の部			
流動負債	11,783	14,496	12,914
支払手形	611	477	843
工事未払金	1,524	1,501	1,457
不動産事業未払金	0	4	46
短期借入金	3,245	7,404	5,562
1年以内償還予定社債	50	—	—
1年以内返済予定長期借入金	1,753	1,630	1,978
未払法人税等	12	3	3
未成工事受入金	4,122	3,088	2,629
不動産事業受入金	18	65	22
完成工事補償引当金	47	56	72
賞与引当金	62	84	75
その他	334	179	221
固定負債	4,770	5,040	4,494
社債	1,500	1,050	1,150
長期借入金	1,674	2,525	1,712
預り保証金	1,416	1,418	1,385
退職給付引当金	49	46	47
その他	130	—	200
負債合計	16,554	19,537	17,408
資本の部			
資本金	867	867	867
資本剰余金			
資本準備金	549	549	549
資本剰余金合計	549	549	549
利益剰余金			
利益準備金	149	149	149
任意積立金	1,201	1,501	1,501
中間(当期)未処分利益	449	466	140
利益剰余金合計	1,799	2,116	1,790
その他有価証券評価差額金	74	40	79
自己株式	△82	△81	△82
資本合計	3,208	3,491	3,204
負債・資本合計	19,762	23,028	20,613

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 中間損益計算書

(自 平成16年7月1日 至 平成16年12月31日)

(単位：百万円)

科 目	当中間期	前中間期	前期(参考)
売上高	9,857	7,564	21,189
完成工事高	4,131	4,999	14,490
不動産事業売上高	5,547	2,564	6,644
その他事業売上高	178	—	53
売上原価	8,956	6,974	20,239
完成工事原価	3,725	4,498	13,290
不動産事業売上原価	5,049	2,476	6,814
その他事業売上原価	180	—	134
売上総利益	900	589	950
完成工事総利益	406	500	1,200
不動産事業総利益(△損失)	497	88	△169
その他事業総利益(△損失)	△2	—	△80
販売費及び一般管理費	589	588	1,169
営業利益	311	0	△219
営業外収益	140	11	60
営業外費用	207	190	435
経常利益(△損失)	243	△177	△594
特別利益	—	0	—
特別損失	50	148	148
税引前中間(当期)純利益(△損失)	193	△326	△742
法人税、住民税及び事業税	1	1	43
法人税等追徴税額	18	—	—
法人税等調整額	99	△130	△328
中間(当期)純利益(△損失)	74	△197	△458
前期繰越利益	375	663	663
中間配当額	—	—	64
中間(当期)未処分利益	449	466	140

・記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

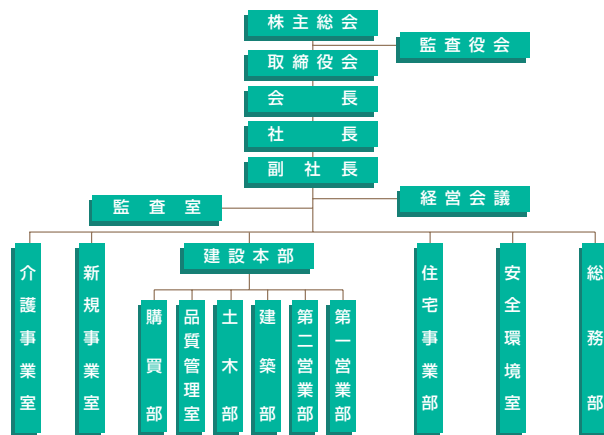
■ 会社概要 (平成16年12月31日現在)

商号 工藤建設株式会社
 設立 昭和46年7月1日
 代表者の氏名 工藤 次郎
 決算期 毎年6月30日
 従業員数 181名 (男子141名、女子40名)
 事業所
 本社 神奈川県横浜市青葉区新石川4-33-10
 東京支店 東京都港区浜松町2-1-16(第3粕谷ビル)
 多摩営業所 東京都町田市南大谷1327-153
 県央営業所 神奈川県海老名市中新田1526
 大和営業所 神奈川県大和市中央5-13-5
 相模原営業所 神奈川県相模原市上鶴間148-3
 戸塚営業所 神奈川県横浜市戸塚区名瀬町2189-1(プロデュースヨコハマ内)

■ 役員及び執行役員 (平成16年12月31日現在)

取締役会長 工藤 五三
 代表取締役社長 工藤 次郎
 代表取締役副社長 工藤 英司
 取締役 工藤 隆晃 (建設本部統括本部長)
 取締役 遠山 悌二郎
 常勤監査役 阿久津 治男
 監査役 八重沢 知正
 監査役 奥原 章男
 常務執行役員 神田 良雄
 執行役員 石田 米治 (第一営業部長)
 執行役員 前田 義仁 (総務部長)
 執行役員 藤井 研児 (建設本部長)
 執行役員 砂邊 一男
 執行役員 小坂橋 洋之 (住宅事業部長)

■ 組織図 (平成16年12月31日現在)



■ 連結子会社の状況 (平成16年12月31日現在)

会社名	資本金 (百万円)	議決権比率 (%)	主要な事業内容
(株)日建企画	50	40	建物総合管理業、不動産の売買・賃貸・仲介及び管理業、各種建設工事業、電気設備工事業、損害保険の代理店業他
(株)サンビルド	40	40	分譲マンションに関する建物総合管理業他
(株)東洋リース	10	40	建築機械及び建築資材のリース業並びにレンタル業、とび工事業
(株)みらいテクノハウス	50	40	工務店経営のマネジメント及びコンサルタント業務 建築物の構造、工法等に関する技術開発等

注) 新規組成され当社が出資した匿名組合大名ワンは当中間連結会計期間より連結子会社となっております。

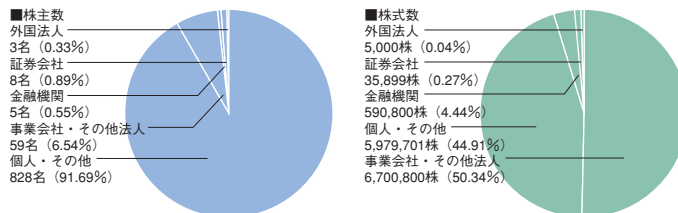
■ 株式の状況

会社が発行する株式の総数 44,000,000株
 発行済株式の総数 13,312,200株
 株主数 903名

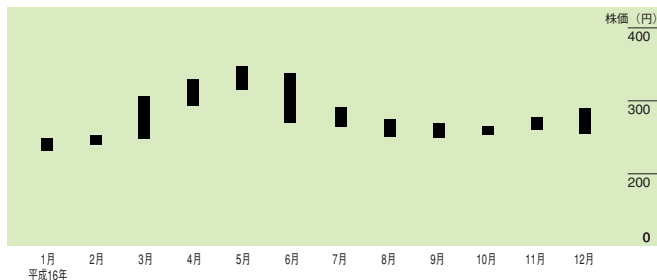
■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	構成比率 (%)
株式会社トップ	5,720	42.97
工藤五三	1,080	8.12
工藤英司	559	4.20
工藤隆司	558	4.19
株式会社横浜銀行	391	2.94
工藤次郎	365	2.74
工藤建設株式会社	317	2.38
福岡地所株式会社	204	1.54
八重沢知正	185	1.39
神田良雄	130	0.98

■ 所有者区別株式分布状況



■ 株価チャート



株主メモ

決算期 毎年6月30日
 定時株主総会 毎年9月
 基準日 毎年6月30日
 その他必要ある場合は、あらかじめ公告致します。
 利益配当金 毎年6月30日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載または記録された株主(実質株主を含む)または登録質権者にお支払い致します。
 中間配当金 取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年12月31日の最終の株主名簿(実質株主名簿を含む)に記載または記録された株主(実質株主を含む)または登録質権者にお支払い致します。

名義書換代理人 三菱信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒100-8212
 (郵便物送付先) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 (電話お問合せ先) 三菱信託銀行株式会社
 同取次所 〒171-8508
 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
 公告掲載紙 日本経済新聞

すみか 安心とやすらぎの住処 介護付有料老人ホーム 「フローレンスケア・たまプラーザ」



アクセス至便ながらも静けさに包まれた街、たまプラーザ。工藤建設の介護付有料老人ホーム「フローレンスケア・たまプラーザ」は、終の住処（ついのすみか）を求めるみなさまに、落ち着いた住環境と行き届いた介護をご提供します。プライバシーに配慮した全室個室、入居者2.5人につき1人の職員が付く充実の介護制度、地域医療機関との緊密な連携。安心とやすらぎに満ちた暮らしが、ここにはあります。

フリーダイヤル 0120-878-910 ホームページ <http://www.good-care.jp/>

ホームページへのアクセスをお待ちしています。

情報満載！

工藤建設のWEBサイトは、お客様とのコミュニケーションのコアとして、充実した情報を提供。物件の紹介・販売にも大きな役割を果たしています。

<http://www.kudo.co.jp/>

